

子どもの本だな 12

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

しょうぼうじどうしゃ じぶた

渡辺茂男 さく 山本忠敬 え (福音館書店)

じぶたは古いジープを改良したちびっこ消防車です。じぶたは、大きな火事のために活躍するはしご車ののっぼくんや高圧車のぱんぷくん、救急車のいちもくさんをうらやましく思っていました。

ある日、隣村の山小屋が火事になりました。のっぼくんのはしごは届きません。ぱんぷくんには道が狭すぎます。けが人もまだいません。じぶたは、斧をかついだ消防のおじさんを何人ものせ、サイレンをならして飛び出しました。じぶたは狭い険しい山道を登り、谷川にホースをおろして水を吸い込むと、力いっぱい火元にはきかけ、無事、火事を消しました。

翌日の新聞にじぶたの活躍が大きく載り、町の子どもたちはじぶたを見るたびに言います。「ちびっこでも、すごくせいのうがいいんだぞ！」山火事を防ぐ大仕事の緊張、じぶたや子どもたちの誇らしい気持ちさが落ち着いた色合いで力強く描かれた絵からも伝わってきます。読んでもらえば三歳から楽しめます。(竹内)

風にのってきたメアリー・ポピンズ

P・L・トラヴァース作 林容吉訳 (岩波書店)

桜町通りのバンクス家には、ジェイン、マイケル、ジョン、バーバラの四人の子どもがいます。この四人の世話をするためにやってきたメアリー・ポピンズは、普通の人ではありませんでした。東風に乗ってやってきて、階段の手すりを下からすべり上がり、空っぽのバッグからエプロン、せっけん、歯ブラシ、靴など…はてはキャンプ用寝台まで取り出してみせるのです。

メアリー・ポピンズは、いつも大変しつかに厳しく怖い人なのですが、一緒にいると思いがけないことが次々と起こります。「笑いガス」が皆にうつって、空中に浮かんだままお茶会を開くことになったり、満月の夜、動物園に出かけてキング・コブラと話をしたり…。

でも、ある日、風向きが変わり、メアリー・ポピンズは行ってしまいました。マイケルは「世界中でメアリー・ポピンズだけいればいいんだ！」と叫びますが、読者の気持ちにもこたえ、続編が三冊あります。(池田)

地下水

この夏、ある高校の依頼で、放送部の生徒たちに読み聞かせ研修を行った。初回は、子どもたちにすすめたい絵本について話をした。『絵本論』(瀬田貞二著)や『児童文学論』(リアン・スミス著)を引用しながらのつたない話を、彼女たちは真剣に、時に眠そうにしながらも、耳を傾け、ノートを取っていた。話に入るきっかけにしようと、それぞれが子どもの頃好きだった絵本と理由を話してもらった。動物がいっぱい入るのでどんなに大きいのだろうと語っていた『てぶくろ』をあげた人は、神戸のおばあさんのうちにいくたびに読むのが楽しかったと語ってくれた。『うえきやのくまさん』をあげた人は、絵本のくまさんは無表情だけれど、おはなしの場面場面にくまさんがどんな表情をしているかが頭に浮かぶ、それを想像するのが楽しかったと話していた。ほかにも、主人公といっしょに冒険したり不思議な体験をして、わくわくしたという感想がきかれた。絵本を読んでもらう子どもたちは、大人が考えるよりも、はるかにストーリーに集中し、言葉を聞き、絵を見ていると教えられた。

2、3回目は、実際に読み聞かせをしてもらい、児童担当のIさんが講評をした。各々味がある読み方で練習を重ねれば良い読み手になりそうだ。図書館にとっても高校生にとっても初めての試みで、反省点はたくさんあるが、絵本を通じて若い人たちと時間を共有できたことが嬉しかった。(片木)

『プーと私』 石井桃子著

河出書房新社 250頁 2014年1月刊 1,600円 (請求記号) イシ

戦後、日本の児童文学に新風を吹き込み牽引してきた人の中に著者、石井桃子がいる。著者がどのようにに子どもの文学と関わり向き合ってきたかを知る事ができる随筆集である。

あるクリスマスの夜、知人の家を訪れた著者は、クリスマスツリーの根元に置かれた朱色の英語の本を手にとった。題は“The House at Poo-h Corner”。楽しそうな本の装丁にそそられ、二人の子どもにせがまれて即興で訳しながら読み進めた。著者が読むたびに子どもたちは笑い転じた。

——その時、私の上に、あとにも先にも、味わったことのない、ふしぎなことがおこった。私は、プーという、さし絵で見ると、クマとブタの合いの子のようにも見える生きものといっしょに一種、不可思議な世界にはいりこんでいった。——

プーとの出会いは運命だったのか、病気を患い死期の近い友人にせがまれ翻訳をして病院に届けることになった。原稿は請われて本になる。このことがきっかけになり著者は児童文学について考え、子どもたちにより良いものを作ると願い実行していく。そして、日本の子どもたちは一心をふとらせ、ゆたかにする「みずみずしい石井桃子訳の絵本、読み物を手に入れた。

著者が子どもの本と深くかかわるようになったきっかけや様々な翻訳の苦労、すぐれた子どもの本の特色やその重要性を考えてきた欧米の先人たちとの出会いが綴られている。シリーズの『家と庭と犬とねこ』『みがけば光る』『新しいおとな』も著者の鋭い感覚、感性があふれている。
(西村)

		10月・11月の移動図書館(いずれも木曜日です)				
10月	11月					
9日	6日	塚森 地域内 10:30~10:50	沖代 地域内 11:00~11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
16日	13日	岩見構下 公民館 10:30~10:50	岩見構上 公会堂 11:00~11:20	原池団地 公民館 15:00~15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
23日	20日	広坂 公民館 10:30~10:50	上太田 公民館 11:00~11:20		吉福 公民館 15:30~15:50	太子ニュータウン 公民館 16:00~16:30

10月の開館日						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	8	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

24~31日は特別整理のため休館します。返却のみ受付ます。(28日は除く)

11月の開館日						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

カレンダーの×印は休館日です。開館は10時から18時まで。金曜日は20時まで開館しています。

